

## 中勢バイパス建設現場の視察・中部地方整備局との意見交換会を開催

～ 三重県各地域の経済成長と発展に向け意見交換会 ～

三重県商工会議所連合会

平成30年8月7日（火）三重県商工会議所連合会（会長 岡本直之）は中勢バイパス建設現場の視察と国土交通省中部地方整備局との意見交換会を開催しました。

中勢バイパスの見学は、三重河川国道事務所の岩下所長等から平成30年度開通予定の鈴鹿・津工区（第7工区）の工事進捗状況、ドローンを使った測量や3次元設計データをもとにICT建設機械による自動化された施工、生産性の向上に繋がる工事の取組み等の説明を受けました。

その後、会場を津商工会議所に移して意見交換会を開催し、県内12商工会議所の会頭や副会頭、専務理事の25名が出席し、国土



▲ 鈴鹿・津工区の現地で説明を受ける一行



交通省からは中部地方整備局の勢田昌功局長をはじめ担当部長、所長の13名が出席しました。

岡本会長は冒頭の挨拶のなかで「三重県内の道路はミッシングリンク、未事業化区間も存在し渋滞が発生している。これを補完する道路ネットワーク整備を求める声がある。また、防災対策として河川や海岸の整備、異常降雨による土砂災害対策も重要であり、産業、観光で三重県のもつポテンシャルが十分発揮できるよう、安定的な予算が確保され、一層の社会基盤整備の推進をお願いしたい」と話しました。



▲ 意見交換会の様子、挨拶をする勢田局長（左）と岡本会長（右）

について建設的な議論をお願いしたい」と挨拶がありました。

意見交換会では、はじめに中部地方整備局から事業概要や防災・減災、観光振興、生産性向上への取り組みについて説明がありました。

その後、各商工会議所から道路網整備の促進、観光振興のためのインフラ整備、防災対策などについて地域要望や提言があり意見交換を行いました。

勢田局長は「地域から声をあげることは大事なこと。中部管内は工業製品出荷額も大きな地域で災害対策の重要性は充分理解している。道路整備など地域づくりの進め方等